

特集

いま考えたい これからの移動のかたち

公共交通を取り巻く環境が厳しくなっている今、さまざまな移動手段を知り、使い方を考えてみませんか。今回の特集では、町の公共交通の現状や課題、利用が広がっているシニアカーを紹介します。

問い合わせ ●公共交通に関すること＝都市建設課
●シニアカーに関すること＝長寿あんしん課

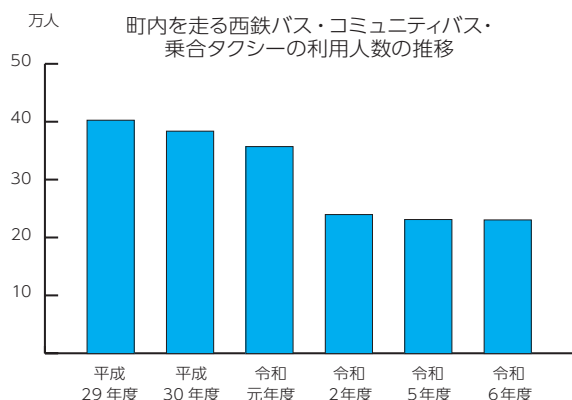


生活に欠かせない 町の公共交通

町内には、交通事業者が運行するＪＲ、西鉄バス、タクシーと、町が運行するコミュニティバス、乗合タクシーがあります。これらの公共交通は、ＪＲ海老津駅を中心に交通網が形成され、私たちの日常生活に欠かせない移動手段の一つとなっています。

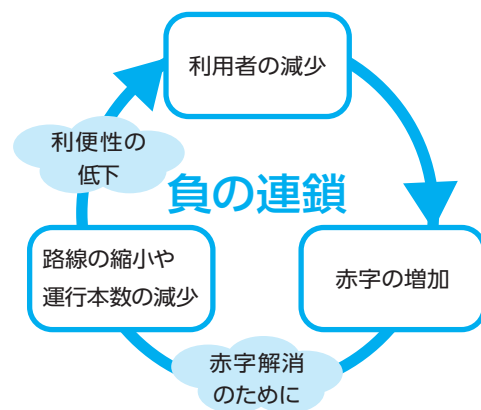
しかし、人口減少や自家用車の普及などに伴い、公共交通の利用者は年々減少しています。特にコロナ禍を境に、ライフスタイルの変化などで利用者が激減し、現在もコロナ禍以前の利用水準に戻っていません。

町内を走る西鉄バス・コミュニティバス・乗合タクシーの利用人数の推移



さらに、バス事業者では運転手不足が深刻化していて、限られた人員で効率的な運行をすることが求められています。

こうした状況の中、町はバスや乗合タクシーの運行を維持するため、運行赤字に対する補填や運行委託料などの費用を負担していますが、その負担額は年々増加しています。もしこのままの状況が続くと、路線の縮小や運行本数の減少といった見直しをせざるを得なくなり、地域の交通の利便性が低下する恐れがあります。



公共交通が 当たり前じゃなくなる!?

利用者の減少や運転手不足など、さまざまな課題を抱える公共交通は、いまや「あることが当たり前」ではなくなっています。



特集

いま考えたい
これからの移動のかたち



TOPICS

JR 海老津駅がより便利になりました

3月15日の JR 九州のダイヤ改正で、全ての快速列車が JR 海老津駅に停車するようになりました。特に博多方面に向かう平日の午前7時台は8本の列車が停車するため、通勤や通学がよりスムーズに。これまで以上に JR 海老津駅が使いやすくなりました。

公共交通を維持していくためには、町・交通事業者・住民が力を合わせる大切が必要です。町では、一部地域で乗合タクシーを導入するなど、地域の実情に配慮した公共交通の体系整備を進めています。しかし、町の取り組みだけでは、公共交通を継続的に維持していくことは難しい状況です。維持するには、皆さんの積極的な利用が必要です。

高齢者や学生、免許を持っていない人にとっては、生活を支える大切な移動手段である公共交通。一方で、「自家用車があるから問

題ない」「公共交通を使っている人から関係ない」と思っている人も、高齢になると、新たな移動手段、特に自家用車に代わる移動手段が必要になるかもしれません。公共交通の維持は、誰かの暮らしを支えると同時に、将来の自分自身を支えるものでもあります。

乗って守ろう！ 私たちの公共交通

将来、運転免許証を返納した後

バスの運行に関するお知らせ

西鉄バスによる松ヶ台循環線の運行が9月30日(火)に終了するため、10月1日(水)からはコミュニティバスが運行する予定です。また、10月1日(水)からバス運賃の改定を予定しています。詳しくは、広報おかがき9月号でお知らせします。

も気軽に外出できるように、公共交通の利用に早くから慣れておくことが大切です。そのためにも、普段、自家用車で出かけているという人は、買い物や旅行に「JRやバスなどを利用してみませんか。公共交通は、子どもから高齢者まで、誰もが安心して利用できる大切な移動手段です。一人ひとりが「町にある公共交通を守る」という意識を持ち、目的地によって移動手段を使い分けてみませんか。私たちの暮らしに欠かせない公共交通のこれからをみんなで考え、未来へつないでいきましょう。

バスに関するよくある質問

Q: バス路線はどのように決めていますか？

A: 主要施設への行きやすさや利用者の声を基に、効率よく運行できるように考えて決めています。

Q: 運行本数はどのように決めていますか？

A: 3週間の乗降調査を年に4回行い、利用状況や運転手の働き方などを踏まえて運行本数を見直しています。利用者が少ない便は、調査結果を基に減らすことがあります。

Q: 通勤・通学時間帯に便数を増やしませんか？

A: 車両や運転手の確保などの課題があります。そのため、増便には他の路線との調整を含め、慎重な検討が必要です。

家計に優しい



維持費などがかかりません。

健康増進



徒歩移動が多くなり、運動量が増えます。

自家用車と比べたメリット

渋滞の緩和



交通量を減らすことができます。

環境に優しい



一人当たりの二酸化炭素排出量が減ります。



「ちょっとそこまで」をお手伝い

シニアカー

「足腰が弱って地域の集まりに行けない」、「そろそろ運転免許証を返納したいけど、車がないと買い物に行けない」などの悩みはありませんか。

ここでは、主に高齢者の移動手段として利用が広がっている「シニアカー」を分かりやすく紹介します。

誰もが安心して出かけられるよう、乗る人も乗らない人もシニアカーについて正しく知ることから始めましょう。



シニアカーってどんな乗り物？

シニアカーは、移動をサポートする電動車いすです。次のような特徴があり、正しく使えば安全に移動することができます。

運転免許は不要で、誰でも乗ることができます。

歩行者と同じように歩道を走行します。

荷物を乗せて移動できます。

最高速度は時速6キロメートルです。



シニアカー販売店や福祉用具販売事業所などで購入できます。

1回の充電で20～30キロメートルの移動ができます。

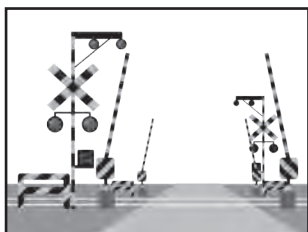
介護保険でレンタルできる場合があります（原則、要介護2以上の認定がある人）。

正しい使い方と危険を回避

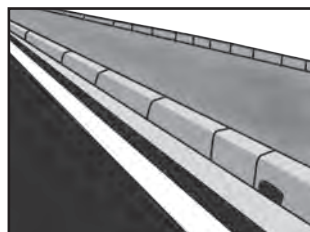


誰でも乗ることができるシニアカーだからこそ、安全に乗るためには注意が必要です。まずは、移動範囲内にある危ない場所を知ることや慣れるための練習をすることが大切です。

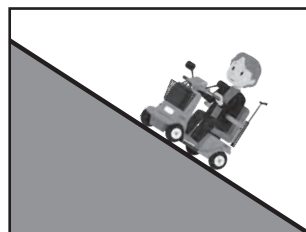
特に、次のような場所を走行するときは転倒や事故につながる恐れがあるため、避けるか注意して通らしましょう。



踏切



高い段差がある道



急な坂道



舗装されていない道



特集

いま考えたい これからの移動のかたち



多くの人に正しく知ってほしい

Interview

シニアカーは、高齢者の暮らしを支える移動手段の一つとして有効です。

そこで、「シニアカーに優しいまち岡垣」を目指してシニアカーを広める活動をしている林さんに話を伺いました。



林 剛己 さん

一般社団法人 遠賀中間医師会おんが病院
訪問看護リハビリステーション 理学療法士 士長

多くのメリットがあります

「買い物や趣味の活動がしたいけど、移動だけで疲れてしまう」という人でも、シニアカーがあれば楽に移動でき、本来の目的である買い物や趣味などを楽しむことができます。

移動の自立は外出意欲の向上につながり、さらに社会参加や介護予防にもつながります。

一人でも多くの人に正しい理解を

シニアカーはますます需要が高まることが予想されます。シニアカーに乗る人はしっかりルールを守って走行し、乗らない人も特性を理解して見守っていただきたいです。

これからの人生を楽しむために

まずはシニアカーを体験して、将来の移動手段として考えてみてほしいです。外出が難しくなっても好きなことを諦めず、シニアカーを上手に活用して自由で楽しい毎日を送ってほしいです。

一方で、ルールを守れなくなったときなどに備えて、利用をやめるタイミングを決めておくことも大切だと思います。

リハビリ中に 利用した人の声



80代男性

練習してコンビニに行けるようになって以降、外出が増えて元になり、リハビリが不要になりました。



80代女性

一人で好きなときにスーパーに行けるようになり、ヘルパーの買い物支援が不要になりました。

乗ってみよう！ シニアカー体験会

岡垣町社会福祉協議会が実施する「社協まつり」で、シニアカーが体験できます。この機会にぜひ乗ってみませんか。

とき 11月22日(土)午前10時～午後1時

ところ いこいの里

問い合わせ 岡垣町社会福祉協議会



購入費用を一部補助します

シニアカーの購入費を最大10万円まで補助します。購入する前に申請と安全講習の受講が必要です。必ず事前に問い合わせてください。



詳しくは
こちら

問い合わせ 長寿あんしん課

公共交通もシニアカーも選択肢に

日々の移動手段として、公共交通やシニアカーを利用してみませんか。外に出かけることで、買い物や趣味の時間をもっと楽しく感じられるかもしれません。

皆さん一人ひとりの公共交通の「利用」が、地域の大切な交通手段を「支える力」にもなります。住み慣れたまちで元気に暮らしていくために、これからの移動のかたちを考えてみませんか。